

## 2. 日中双方の地震について考えた地震防災討論会



2008年6月6日(金)、北京の国務院発展研究センター(DRC)において、地震防災をテーマにした討論会が開催されました。中国の専門家約10名と、NRI側の9名が集まり、日中双方の地震防災対策について、議論が行なわれました。

中国側出席側： マクロ経済研究部の魏加寧副部長、学術委員会の陸文強秘書長、産業経済研究部の馮飛部長、社会発展研究部の林家彬副部長、同金融部の張氏、市場経済研究所の任興洲所長、北京大学の白氏、他約10名

NRI側： 社会システムコンサルティング部の浅野憲周、佐藤将史、コンサルティング事業推進部の木村靖夫、川嶋一郎、社会産業コンサルティング部の草野恵一さん、NRI上海の葉華、TNCの松野・李佩・劉績

魏副部長より会議の主旨、目的について説明がされたあと、鳴沢隆副会長からの四川大地震で被災された方々へのお見舞のメッセージが木村さんより読み上げられました。浅野さんは日本の地震防災対策についてプレゼンテーションを行い、「日本での典型的な地震発生メカニズムと四川大地震は同じメカニズム」だと述べました。さらに、阪神・淡路大震災の発生時の対応や教訓、日本の地震防災対策に関わる取組みを説明し、最後に残された課題として住宅耐震化、官民、地域、住民連携の必要性および防災対策に関わる情報公開や評価の仕組み整備の必要性をとらえました。

中国側の出席者からの関心は非常に高く、「中央防災会議の開催頻度」「被災者の生活再建支援策」「住宅ローン残債者の支援策」「阪神・淡路大震災後の制定された復興に向けた財政支援に関わる法律改訂」「企業活動の復興支援策」など、かなり専門的な質問が活発に寄せられました。また、「日本の防災、復興対策の認識を新たにしたい」という感想もあり、NRIの情報提供が高く評価された結果となりました。最後に、今後の地震対策の策定においてNRIは中国に協力する意向を表明し、議論を継続することで双方合意し閉会しました。

本討論会を受けて、鳴沢副会長が国務院発展研究センターの劉世錦副主任、マクロ経済研究部の余斌部長らを6月11日に訪問しました。鳴沢副会長は、NRI上海のコンサルタントが翻訳した相当量の震災関連資料の中国語訳を贈呈するとともに、NRIの地震防災情報システム(DIS)を紹介し、四川大地震の今後の復興や防災体制構築等についてNRIとしての協力を申し出ました。DRCもNRIの申し出を前向きに捉え、引き続きDRCとNRIの間で今後の協力関係を進めることを合意しました。中国側の震災復興に対するNRIの経験やアドバイスに対する期待がさらに高まっているようです。



(写真) 劉副主任と会談を行う鳴沢副会長